学校番号	１０１２

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編 数学Ｂ（数研出版）						
副教材等	基本と演習テーマⅡ＋Ｂ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「数列」、「統計的な推測」または「数学と社会生活」といった新しい分野を学習します。
・講義と演習を交互に行い、入試に向けた実践力を養います。
・「予習をすることで問題点を見つける→授業内で問題点を共有する→周囲と議論し、解法を導く→問題点の解決法を発表する」といった一連の過程で授業を行います。
・定期的に家庭学習用課題を課します。最後まで諦めずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

・数列、統計的な推測または数学と社会生活について理解し，基礎的な知識の習得と技能を身につける。
・日常生活における身近な事象を取り上げ、数学とのかかわりを認識し考察する。また、数列、統計的な推測に関して、社会において活用できる思考力を身につける。
・グループワーク等を通して、さまざまな解法があることや定理の意味について気が付き、数学に対する興味や関心を高める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列、統計的な推測または数学と社会生活における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数列、統計的な推測または数学と社会生活における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数列、統計的な推測または数学と社会生活の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	数列	等差数列と等比数列	a: 数列の定義，表記について理解している。等差数列や等比数列の一般項や和の公式などを理解し、活用することができる。 b: 等差数列や等比数列の項を書き並べて，隣接する項の関係が考察できる。等差数列や等比数列の和から一般項を考察することができる。 c: 数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。等差中項や等比中項の性質に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。複利計算などの日常における事象を数列を用いて考察しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み
		いろいろな数列	a: 第 k 項を k の式で表して，初項から第 n 項までの和が求められる。記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。数列の和 Sn と第 n 項 an の関係を理解し，数列の一般項が求められる。 b: 数列の和を記号Σで表して，和の計算を簡単に行うことができる。初項から第 n 項までの和に着目して，一般項を考察できる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。群数列を理解し，ある特定の群に属する数の和が求められる。 c: 自然数の 3 乗の和の公式を求めようとする意欲がある。f(k＋1)－f(k)を用いる和の求め方に興味をもち，具体的な問題に活用しようとする。群数列に興味をもち，考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み

2学期	数列	漸化式と数学的帰納法	a: 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解し，具体的に項が求められる。数学的帰納法を用いて等式，不等式を証明できる。 b: 漸化式を適切に変形して，その数列の特徴を考察することができる。おき換えを利用して，漸化式から一般項を求めることができる。n≧k の場合に成り立つ不等式を，数学的帰納法を用いて証明できる。 c: おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。an＋1＝pan＋q を満たす数列の階差数列について，具体的に考察しようとする。数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み
	統計的な推測	確率分布	a:確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。確率変数の和の期待値を求めることができる。確率変数の独立・従属について理解している。二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。標準正規分布に従う確率変数 Z についての確率を求めることができる。 b: 試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。確率変数の期待値，分散，標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。二項分布や正規分布の特徴を理解し、さまざまな視点からとらえることができる。 c: 二項分布に興味・関心をもち，さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。連続的な確率変数である正規分布に興味をもち，正規分布について積極的に考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み

3学期	統計的な推測	統計的な推測	a: 母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 b: 母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間の考え方がわかる。 c: 母集団や標本の特徴を理解しようとする。信頼区間の幅から，標本の大きさを考察する意欲がある。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み
	数学と社会生活	数学と社会生活	a:移動平均や回帰分析等の概念を理解している。 b:日常におけるさまざまな問題に仮説をたて、数学を用いて考察することができる。また、考察したことを他社に論理的に伝えることができる。 c:数学を用いて考察することに関心をもち、個人またはグループで意欲的に取り組むことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト パフォーマンス課題 レポート課題	パフォーマンス課題 授業プリント 授業への取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度